



微生物がアレルギー疾患に及ぼす影響の研究

浅田 秀夫

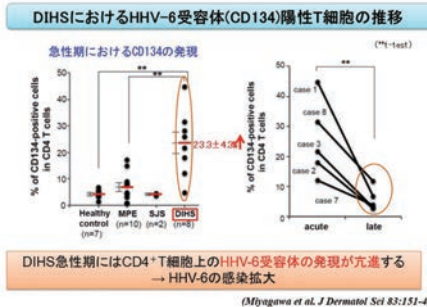
Hideo Asada

皮膚科学／教授

■キーワード ヒトヘルペスウイルス、ブドウ球菌、アレルギー、アトピー性皮膚炎、薬疹

シーズ概要

ウイルスや細菌などの微生物感染がアレルギーの発症や経過に影響をおよぼすことは、以前より経験的に知られている。重症型薬疹のひとつである薬剤性過敏症候群や造血幹細胞移植後のGVHDの病態形成にヒトヘルペスウイルスが関与していることが明らかとなってきた。また、皮膚に常在しているブドウ球菌が、表皮における免疫応答に影響をおよぼし、アトピー性皮膚炎などのアレルギー性皮膚疾患の発症や増悪に深く関与していることがわかってきた。即ち、従来アレルギー反応と考えられてきた疾患の病態形成に微生物感染が広く影響をおよぼしている可能性を示すデータが集積されつつある。われわれは微生物が皮膚の自然免疫および獲得免疫応答に及ぼす影響を与え、アレルギー疾患の形成にどのように関わっているのかについて研究を進め、皮膚アレルギー疾患の新たな診断法や治療法の開発を目指している。



研究成果の応用可能性

- ・重症薬疹の早期診断バイオマーカー
- ・分子標的治療薬による皮膚障害の病態解明と新しい治療法の開発
- ・アトピー性皮膚炎の病態における自然免疫の役割の解明と新規治療法の開発

Appeal Point

アピールポイント

潜伏感染、免疫撓乱、再活性化という巧妙なメカニズムを駆使して宿主と共存しているヘルペスウイルスが、様々なアレルギー疾患の病態形成に関与していることが明らかになってきています。

関連文献／特許

1. J Allergy Clin Immunol Pract. 10:558-565, 2022.
1. 特許出願：『レチノイン酸マイクロニードル』(2012-253664)